オピニオン

日本デフオリエンテーリング協会と、その今後について

日本デフオリエンテーリング協会　代表　野中好夫

日本デフオリエンテーリング協会について

当会は2005年メルボルンデフリンピックのオリエンテーリング競技参加に際し、JPC（日本パラリンピック委員会）からの助成金を受けるために急遽設立されたものである。現在は貧弱な事務的運営の為JPCから自然脱退している。

日本デフオリエンテーリング協会
（JDOA:JAPAN DEAF ORIENTEERING ASSOCIATION）

【沿革】
2005年　第20回デフリンピック（オーストラリア・メルボルン）にアジア地域として初めて選手を派遣するのを契機に当協会設立。
その後、（社）東京都聴覚障害者連盟体育部より年一回、聴障者オリエンテーリング大会を東京都オリエンテーリング協会の協力のもとで開催してきた。
2006年　第一回ろう者オリエンテーリング世界選手権大会（ハンガリー）へ男女各一名初出場。
2007年　オリエンテーリング発祥地である北欧のフィンランドへ遠征。世界最大の大会の一つであるFIN5大会にフル出場。
2008年　一般の国際大会の第一回アジア選手権大会（韓国）で2009年台北デフリンピック開催国台湾より初参加のろう者オリエンティアと会う。
2009年　台北デフリンピックへの派遣は有力選手不在のため断念し、視察のみ。
2010年　第2回アジア選手権大会併設公認大会（岐阜県・愛知県）に聴障者オリエンティア2名がフル参加。
2011年　第二回ろう者オリエンテーリング世界選手権大会（ウクライナ）へ男子3名出場。リレーにも初出場。

【会員数】　7名（うち、ろう者4名）

【活動内容･特徴】
オリエンテーリングというスポーツはまだあまり知られていない。「えっ、走るの!?」と驚嘆する人も少なくない。グループでまとまって歩き回るのはスポーツとしてのオリエンテーリングではなく、日本が勝手に作ってしまった世界唯一のレクリエーション的なオリエンテーリングなのである。それが我が国におけるスポーツとしてのオリエンテーリング普及のネックとなっているのが現状である。
ろう学校から都立高校へインテグレーションした代表が友人の勧めで興味をもち、本格的に始めたのが今から36年前に遡る。その間、何人か全国のあちこちで開催された大会に参加したろう者もいたが、健聴者たちとのコミュニケーションの壁が厚く長続きしなかった者が少なくなかったようだ。地道に続けてきた代表がIOCに認められたオリエンテーリング競技をいち早く種目に取り入れたデフリンピックに出場し、オリエンテーリング競技を通してろう者の啓発活動に役立てることに専念することにした。

JPC加盟に向けて

先日、このWDOC参加報告を兼ねて訪れた財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会事務局において、次年度よりJPCは財団法人日本障害者スポーツ協会と統合し、登録、加盟要件が一本化されるということを知らされた。加盟要件は次のように（1）と（2）の二つがある。ここではデフオリエンテーリングの場合としてあげる。

（1）競技の要件　デフリンピック実施競技の場合は参加国が10ヶ国以上の競技であること、世界選手権大会実施競技は過去に世界大会を実施し、参加国が10ヶ国以上の競技
（2）競技団体の要件　1.日本を統括する団体であること。（会員構成が都道府県・政令指定都市のうち20以上あること。）2.競技団体の組織運営ができていること。（事務局体制、経理体制、役員体制など）3.スポーツ振興の事業を実施していること。（日本選手権大会などの実施や指導者の養成など）4.選手強化及び国際大会派遣事業を実施していること。5.強化及び指導体制があること。（委員会開催、コーチ、ドクター、トレーナー、栄養支援など）6.国際大会を開催していること。

以上の加盟要件（1）と（2）を満たしている団体は加盟団体として、また加盟要件（1）か（2）のいずれかを満たさないものはJPC準加盟団体として受け付ける。強化費の配分については、加盟団体と準加盟団体ごとに配分額、配分率が異なる。
当会では加盟要件（1）を満たしているが加盟要件(2)が課題となっている。この度、有力デフオリエンティアが2人出現し2013年デフリンピックに向けて強化を進めている。しかし、当会のみで強化合宿や練習会が行えない為、田村選手のようにJOAの強化委員会に協力をお願いしている。
2005年メルボルンデフリンピックの後、今回のWDOCを含めこれまでの国際大会の派遣は全て自己負担で行われてきた。また専任コーチやトレーナーや手話通訳者などの派遣も費用関係で実現できておらず私が全て兼任する形できた。今回のWDOCでもレース前夜には必ずTD会議が行われ監督は出席しなくてはならない。私が出席し、その後チームミーティングを開催して重要事項の連絡や戦略を講じた。競技当日でも選手各自はコーチ不在の為、なんでも自己管理しなくてはならなく色々な負担がかかっている。しかも、このような貧乏チームは我が国だけのようである。
台湾は身障者スポーツ協会の会長を団長に据え、一般のオリエンテーリングクラブメンバーによるコーチ、外国語通訳兼国際手話通訳者を一般人からたてて選手も含めて国からの助成金で派遣されてきたようである。そしてこれは他国でも同様である。なぜ日本にはないのかと納得できないとともに、私の力不足を痛感している。JOA事務局へWDOC参加報告しに伺ったときにもあらためて今後について協力支援をお願いしてきたところである。
先ずは当会とJOAとの関係を明確にし、両者間のつながりをさらに強化してデフオリエンテーリングのみでなく日本におけるオリエンテーリングの世界へのアピール力を一層高めて行きたい。

【参考】
第2回WDOC公式サイト
（O-MAP、RESULT、PHOTOなど有り）
http://www.deafsport.org.ua/orient
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会
デフリンピック啓発ウェブサイト
http://www.jfd.or.jp/deaflympics

（野中　好夫）